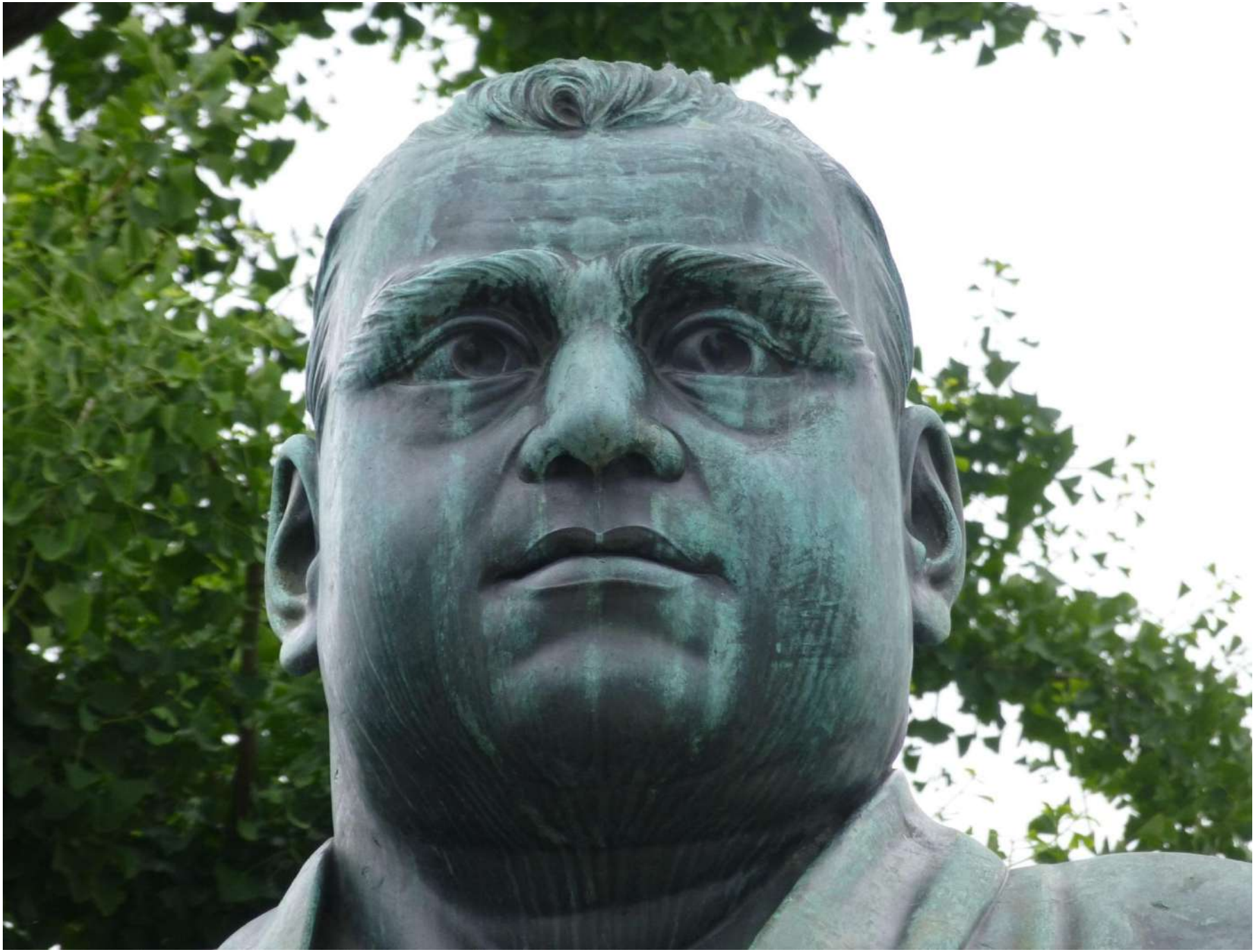
愛加那

西郷3人の妻（3人目の妻）

- 糸(いと・糸子とも：1943－1922）
- 薩摩藩士・岩山直温の娘
- 1865年1月結婚－1877年9月死別（12年8か月）
- 3人の子息（寅太郎、午次郎、酉三）のほか、愛加那の2人の子供（菊次郎、菊草）を引き取って、育てる。
- 西郷の人間的な誠実さを男性の理想像とし、非常に自分に厳しく、極めて謹直な西郷を愛する妻だった。

いと夫人と上野公園の西郷銅像



いと夫人と西郷銅像

- 上野公園に建つ西郷隆盛銅像。
- 1889年（明治22）大日本帝国憲法発布の大赦により、西郷に正三位が遺贈されることになった。
- 西郷の名誉回復を記念して建立された。
- 高村光雲（東京美術学校彫刻科教授）に依頼。
- どんな銅像にするか、検討。
- 軍服姿：西南戦争を想起させるので×
- 猟犬を連れて兎狩りで出かける着流し姿にすることになった。

西郷銅像除幕式

- 1898年（明治31）12月18日午前10時
- 建設委員長：樺山資紀
- 除幕委員長：川村純義
- 来賓：山県有朋、西郷従道、大山巌、黒田清隆、勝海舟、榎本武揚
- 銅像を目にしたいと夫人の言葉：
  「アラヨウ、宿んしはこげんなお人じゃなかったこてえ！」

いと夫人発言の真意

- いと夫人の発言

  銅像の「顔が似ていない」と誤解されたのだが。

- 真意

  「うちの人は、たとえ私学校の若い人が訪ねて来ても、袴を着けて会う人だった。

  それが、あんな無作法な姿では、（銅像を）見てくださる方に申し訳ない」

いと夫人が希望した銅像（鹿児島市、安藤照作）

西郷と伊丹

- 薩摩藩の京都駐在を長年務めた西郷だが、伊丹に来たことはあるのだろうか？
- 林真理子の近著『西郷どん！』

「（1864年）六月、吉之助は兵庫への船に乗った。これも大久保から依頼されたことであるが、

伊丹の地に楠木正成を祀る神社を久光が望んでいる。今や勤王の象徴となった正成の神社を新しく建立したいというのだ。（中略）敷地を探せということらしい」

西郷と伊丹

- 西郷は伊丹に来たことがあるらしい。
- 確たる資料が残っている訳ではないが、

　猪名野神社のそばにあった料亭に宿泊したとの伝承がある。

　＊伊丹は近衛氏の領地であり、薩摩藩と近衛氏は、親密な関係にあったことから、西郷が伊丹に来ても不思議ではない。

- なお、本泉寺（伊丹市伊丹2）には、楠木正行（正成の子）の墓があるが、現在修理中。

まとめ～西郷に学ぶ

- 西郷に何を学びたいと思われますか？
- 私が学びたいこと。

無欲無私、誠心誠意、清廉潔白などなど……。

そしてもう一つ：

「自分に厳しく、ほかの人に優しく」です。

西郷は次のように言っております。

まとめ

- 南洲翁遺訓26条

「己れを愛するは善からぬことの第一也。修行の出来ぬも、事の成らぬも、過ちを改むることの出来ぬも、功に伐（ほこ）り驕慢の生ずるも、皆自ら愛するが為なれば、決して己れを愛せぬもの也」

→自分を甘やかすことが、第一に善くないことだ。修行ができない、ことが成就できない、過ちを改められない、過去の功労を自慢して傲慢になる、

すべて自分を甘やかす心がもとにある。決して自分を甘やかす心を持ってはならない。

《参考》西郷隆盛年譜　＊年齢は数え年

西暦	和暦	年齢	事項
1827	文政10	1	12月7日　西郷吉兵衛の長男として鹿児島城下の下加治屋町で生まれる。幼名・小吉（こきち）。
1839	天保10	13	造士館からの帰途、友人と争い右肘を負傷。武術より、学問に励むようになる。
1841	天保12	15	元服。吉之助隆永となる。
1844	弘化元	18	藩の郡方書役助となる。上司の郡奉行・迫田太次右衛門利済から、農政全般につき大きな影響を受ける。
1846	弘化3	20	下加治屋町郷中の二才頭となる。

1851	嘉永4	25	島津斉彬、薩摩藩主となる。
1852	嘉永5	26	伊集院兼寛の姉・須賀と結婚。 9月27日　父・吉兵衛死去、11月29日　母・満佐死去。
1853	嘉永6	27	6月3日　ペリー浦賀来航
1854	安政元	28	4月　藩主・斉彬の参勤に従い江戸へ。庭方役に任命される。水戸の藤田東湖に会い、深い感銘をうける。 秋頃、妻須賀が実家に引き取られ、離婚。
1858	安政5	32	7月16日　主君島津斉彬病死。 7月27日　斉彬の訃報に接し殉死を決意するも、僧・月照の説得により翻意。 11月16日　僧・月照と錦江湾に入水。西郷のみ助かる。 12月　菊池源吾と名を変え、奄美大島へ潜居を命ぜられる。

1859	安政6	33	11月8日　愛加那（島妻）と結婚。
1860	万延元	34	3月3日　桜田門外の変（井伊直弼暗殺）
1861	文久元	35	1月2日　庶長子・菊次郎誕生。
1862	文久2	36	2月12日　召喚状を受けて鹿児島へ戻る。大島三右衛門に改名。 7月　　島津久光の命令に背いたとして、徳之島へ配流。 閏8月　沖永良部島へ移送される。
1864	元治元	38	2月28日　赦免され鹿児島へ戻る。 3月19日　軍賦役兼諸藩応接役に任命される。 7月19日　禁門の変で薩摩兵を指揮して、長州兵を撃退する。 9月11日　大坂において勝海舟と会見。
1865	慶応元	39	1月28日　岩山直温の次女・糸（23歳）と結婚。
1866	慶応2	40	1月21日　京都の小松邸において薩長同盟成立。 7月15日　嫡子寅太郎誕生。

1866	慶応2	40	7月20日　将軍家茂死去 12月5日　徳川慶喜　将軍に就任 12月25日　孝明天皇崩御
1867	慶応3	41	1月9日　明治天皇践祚 10月14日　倒幕の密勅下る 将軍慶喜　大政奉還を奏上 11日15日　坂本龍馬暗殺 12月9日　王政復古の大号令（幕府の廃止・新体制の発足） 12月25日　薩摩藩江戸藩邸焼き打ち事件発生
1868	慶応4 明治元	42	1月3日　鳥羽伏見の戦いを皮切りに戊辰戦争勃発 3月13日・14日　東征大総督府参謀として勝海舟と会談 4月11日　江戸城無血開城 9月8日　明治に改元 9月27日　最後まで戦った庄内藩に対し寛大な処置を行う

1869	明治2	43	2月25日　藩主忠義から藩政改革を要請され、 鹿児島藩参政に就任 6月　　明治新政府、版籍奉還実施
1871	明治4	45	6月25日　明治新政府の参議に就任 7月14日　廃藩置県断行 11月12日　岩倉使節団　横浜港を出発 西郷　留守内閣の筆頭参議となる
1872	明治5	46	5月23日　明治天皇の西国巡幸に西郷同行 7月20日　近衛都督兼陸軍元帥に就任 12月3日　太陽暦の採用により、この日が明治6年1月1日

1873	明治6	47	5月10日　陸軍大将（陸軍元帥がなくなったため） 8月17日　西郷の朝鮮派遣を閣議決定 9月13日　岩倉具視帰国 10月15日　閣議で西郷の朝鮮派遣決定 10月23日　西郷辞表提出 （朝鮮派遣が岩倉・大久保らの策謀により延期になったため）
1874	明治7	48	6月　私学校設立

1877	明治10	51	2月ー9月　西南戦争 9月24日　城山で死去
1889	明治22		2月11日　憲法発布に伴う大赦で罪を許され、 正三位追贈
1898	明治31		12月18日　上野公園内設置の西郷隆盛銅像 の除幕式

【参考文献】

- 家近良樹『西郷隆盛』(ミネルヴァ書房　2017年8月)
- 家近良樹『西郷隆盛　維新150年目の真実』(NHK出版　2017年11月)
- 猪飼隆明『西郷隆盛ー西南戦争への道』(岩波書店　1992年6月)
- 猪飼隆明訳『新版南洲翁遺訓』(KADOKAWA　2017年7月)
- 不破俊輔『西郷隆盛その生涯』(明日香出版社　2017年10月)
- 落合弘樹『西南戦争と西郷隆盛』(吉川弘文館　2013年9月)
- 安藤優一郎『西郷どんの真実』(日本経済新聞出版社　2017年9月)

- 林真理子『西郷どん！』前編・後編（KADOKAWA　2017年11月）
- 原口泉『西郷どんとよばれた男』（NHK出版　　2017年8月）
- 北影雄幸『西郷どん入門』（勉誠出版　　2017年8月）
- 稲盛和夫『人生の王道　西郷南洲の教えに学ぶ』（日経BP　2007年9月）
- 北康利『西郷隆盛～命もいらず名もいらず』（ワック　2013年6月）
- 奈良本辰也『西郷隆盛随いて行きたくなるリーダーの魅力』(プレジデント1989年11月)
- 石原貫一郎『西郷隆盛に学ぶ』（新人物往来社　1989年1月）
- 木村幸比古『知識ゼロからの西郷隆盛入門』（幻冬舎　　2017年12月）
- 坂野潤治『西郷隆盛と明治維新』（講談社　　2013年4月）
- 澤村修治『西郷隆盛　滅びの美学』（幻冬舎　2017年9月）